

指定都市育成研究協議会 仙台大会に参加して

熊本市子ども会育成協議会 会長 山本 一郎

第2分科会は、テーマ「災害に強い子ども会へ」のもと、震災を体験した神戸市、仙台市、熊本市の3都市の子ども達はそれぞれ震災を乗り越え成長しましたが、その後も多発する災害について子ども会として何が出来るのか、どうすれば災害に立ち向かう心や知恵を育ていけるのかなどのお話の場になりました。

まず、3都市の発表がありました。

神戸市は、①阪神・淡路大震災 ②子ども会の活動再開 ③神戸市の防災学習 ④神戸市子ども会における取組み ⑤災害の発生に備えて 等について発表がありました。

仙台市は、①東日本大震災の概要 ②仙台市立荒浜小学校について ・その時の様子 ・復興をめざし子供たちと向き合った1年 ・子供たちの防災意識を高める ・人々の思い などの発表がありました。

熊本市は私が、①熊本地震の概要、熊本城・益城町・南阿蘇村などの災害の大きさ ②復興の様子 ③当時の子ども会の対応などをパワーポイントを使って説明しました。

当時の熊本市子ども会の対応として、余震の続く中、組織的に活動は出来ていなかったが、YL、JL、理事等が個人的・自主的に避難所でのボランティア活動（物資配布など）を行っていたこと。

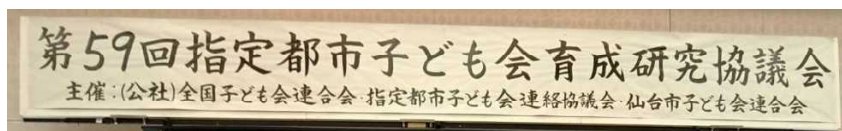
熊本市子協の事務所が入っていた中央公民館が被災して出入りができないため、単子との連絡が取れない状態だったこと。など

また④今後の子ども会の災害時への備えについては、単子子ども会では、自然災害ではないが、コロナ禍においての対応をみると、アイデアあふれる、涙ぐましい活動をしていて、危機に対する対応能力は十分あることが分かったので、今後の課題として災害時の単子子ども会の対応の仕方を啓発したり、避難所にJLやYLが避難している場合、子ども達を集めてゲームをしたりして、子ども達の心を和らげることや、子ども達に積極的に声をかけることの大切さなどを伝えていく必要性を話しました。

また、そのような活動が出来るように、毎月のJL定例会で「非常時の場合の対応の仕方」や「KYT」を研修の中に入れておく。などの対応を研究課題として提案しました。

その後、グループ討議がありました。〈自助〉「災害直後」では自分の安全、情報収集、「復興の活動」自分が元気でなければいけない。「これからの活動」近所の人に声かけ、安全確認が必要。

〈共助〉では高齢者への声かけができていなかった。近所との助け合い、子どもたちの笑い声、募金活動、子ども会ではやっぱりKYTが必要であることが参加者の一致した意見でした。



第59回 指定都市子ども会育成研究協議会 仙台大会

テーマ **第2分科会**
「災害に強い子ども会へ」

熊本市子ども会育成協議会
会長 山本 一郎

